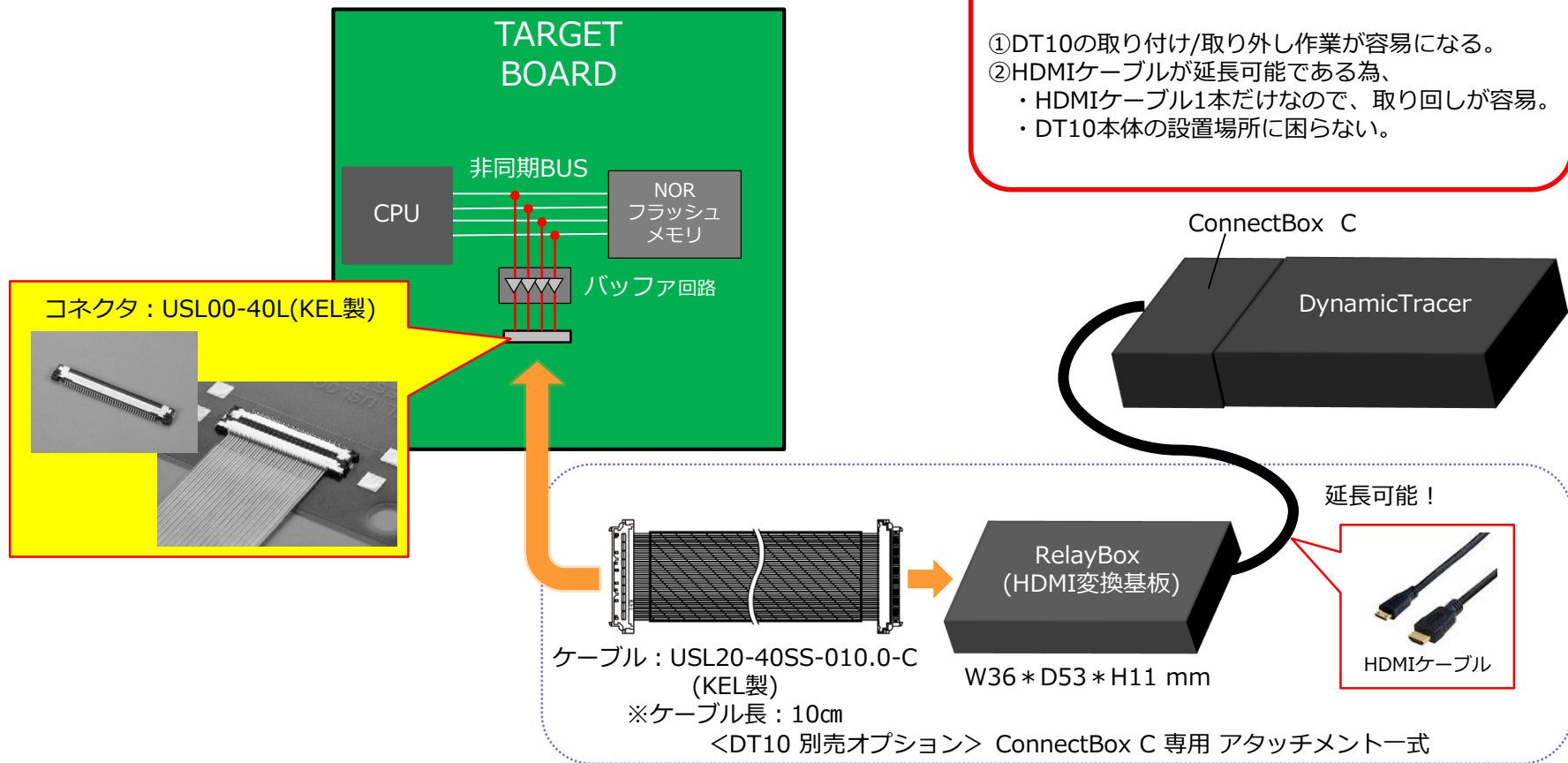


# 非同期BUS接続 専用コネクタの実装案

## 接続イメージ

ターゲット基板に弊社指定の40PINコネクタを実装することで、DT10の非同期BUS接続が可能になります。



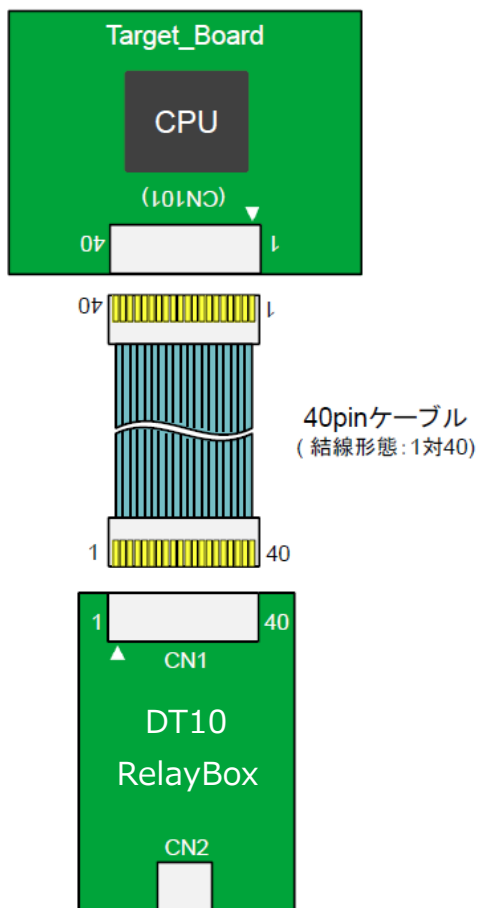
## 専用コネクタ実装のメリット

- ①DT10の取り付け/取り外し作業が容易になる。
- ②HDMIケーブルが延長可能である為、
  - ・HDMIケーブル1本だけなので、取り回しが容易。
  - ・DT10本体の設置場所に困らない。

# 非同期BUS接続 専用コネクタの実装案

## ピン配置表

ターゲットボード側のCN101は、以下のピン配置で配線してください。



Target Board	
CN101	
KEL : USL00-40L	
PIN NO.	PIN NAME
1	A16
2	A15
3	A14
4	A13
5	A12
6	A11
7	A10
8	A9
9	WE#
10	A19
11	A18
12	A8
13	A7
14	A6
15	A5
16	A4
17	A3
18	A2
19	A1
20	CE#

Target Board	
CN101	
KEL : USL00-40L	
PIN NO.	PIN NAME
21	GND
22	N.C
23	D0
24	D8
25	D1
26	D9
27	D2
28	D10
29	D3
30	D11
31	D4
32	D12
33	D5
34	D13
35	D6
36	D14
37	D7
38	D15
39	GND
40	A17

# 非同期BUS接続 専用コネクタの実装案

## 設計上の注意点

- 40Pinケーブルの長さは、約10cmあります。  
接続時にはバスラインに余計な浮遊容量がぶら下がります。  
  
ターゲット機器によっては、波形品質を低下させる要因となりますので、バス上に他のデバイスなども複数接続される場合やコネクタまでのパターン配線距離が長くなる場合などは、安全策として、バスラインとコネクタ間にバッファ回路+出力にダンピング抵抗を設計していただくことを推奨します。
- DT10側(RelayBox)に入力する信号は、  
 $Lo = 0V$ ,  $Hi = 1.8V$  か、 $Lo = 0V$ ,  $Hi = 3.3V$ となります。(切り替え可能)  
CPU側の出力電圧が仕様を満たさない場合は、レベルシフトICを使用してください。